

2018年1月9日

<カゴメ ニュースリリース>

弘前大学医学研究科に共同研究講座

「野菜生命科学講座」を開設 ～健康診断のビッグデータ解析で野菜の役割に迫る～

国立大学法人弘前大学（学長：佐藤敬）と、カゴメ株式会社（社長：寺田直行）は、2018年1月1日付で、共同研究講座『野菜生命科学講座』を開設し、1月9日に弘前大学において開講式を執り行いました。本講座において、野菜の健康増進効果について医学・生命科学と食品科学とを融合した共同研究を行うとともに、弘前大学COI（*）が中心となり取り組んでいる「青森県の短命県返上活動」とも連携することで、その研究成果を「野菜摂取促進」という社会実装につなげ、我が国の社会課題の一つである「健康寿命の延伸」の解決に取り組んで参ります。



「野菜生命科学講座」の看板を掲げる

カゴメ(株) イノベーション本部 自然健康研究部 菅沼 大行 部長（左）と弘前大学 佐藤敬 学長（右）

本講座において実施する研究の目的と内容は以下の2つです

1. 野菜の摂取が健康の維持および疾病の予防に役立つメカニズムを明らかにすること。

弘前大学医学部が10年以上にわたって継続的に実施し、弘前大学COI*の根幹でもある「岩木プロジェクト健診」の健康に関するビッグデータを活用し、野菜や、野菜の中に含まれるビタミンや食物繊維、抗酸化物質の摂取と、岩木プロジェクト健診で測定されている2,000項目以上のものぼる健康指標との関係性を解析するとともに、そのメカニズムを生化学的に立証することで、野菜の摂取が健康の維持及び増進に役立つ理由を明らかにします。そして、得られたエビデンスは、認知症やメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームといった、健康寿命の短縮を招く疾病を予防するための商品の開発にも応用して参ります。

2. 野菜不足の改善を促すため「野菜の充足度」を簡単に測定出来る手段を開発すること。

“野菜を摂取する”という行動変容を促すために、「野菜の充足度」を簡単に測定する手段をカゴメにて開発し、弘前大学COIにて実施している健診の現場においてその実効性を検証し、「野菜摂取の過不足を測る」⇒「食事指導に活用する」⇒「野菜を摂取する行動に移す」という仕組みの開発と普及につなげます。

■ 共同研究講座『野菜生命科学講座』の概要

<メンバー構成>

教授 : 伊東 健 (弘前大学院医学研究科 分子生体防御学講座)
特任教授 : 中路 重之 (弘前大学院医学研究科 社会医学講座)
講師 : 倉内 静香 (弘前大学院医学研究科 社会医学講座)
助教 : 山寄 博未 (弘前大学院医学研究科 分子生体防御学講座)
特任助手 : 清水 直 (カゴメ(株)イノベーション本部)

<契約期間> 2018年1月1日～2020年12月31日

<設置場所> 弘前大学大学院医学研究科 分子生体防御学講座 (青森県弘前市在府町5)

(*) 弘前大学COI :

革新的イノベーション創出プログラム「COI STREAM」とは、“10年後の理想とする社会”(将来像)からバックキャスト(振り返り)した研究活動を行い、創出された新しい成果を社会実装させることで大きなイノベーションを起こすために長期間(最大9年間)の研究を支援する文部科学省のプログラムです。弘前大学COIは、全国12の拠点(平成25年時点)の一つに採択されたものであり、青森県弘前市岩木地区で十数年間実施してきた「岩木健康増進プロジェクト」の2,000項目にわたる超多項目健康ビッグデータを解析することで、認知症・生活習慣病などの早期発見を可能にし、予防方法の創出と検証を行い、その成果を社会実装することを目指しています。

なお、弊社代表取締役社長 寺田直行は、2018年2月9日(金)に開催される「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2018」に登壇し、「野菜生活を科学する」をテーマに本講座の意義などについて講演を行う予定です。

『弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2018』

日時 : 2018年2月9日(金) 13:00～17:20

場所 : アートホテル弘前シティ・プレミアムホール (青森県弘前市大町1-1-2)

<http://coi.hirosaki-u.ac.jp/web/activity.html?id=200>

<報道機関様向けのお問い合わせ先>

カゴメ株式会社 経営企画室 広報グループ 鶴田・北川

TEL : 03-5623-8503